

編者はしがき——『新編生命の實相』発刊に寄せて——

生長の家創始者・谷口雅春先生が著された『生命の實相』が昭和七年一月一日に発刊されてより、ちょうど満八十年になる。それを期して、装いも新たに『新編生命の實相』として発刊されることとなった。

そもそも、この『生命の實相』は、尊師・谷口雅春先生が昭和五年に個人の月刊誌として『生長の家』誌を創刊し、そこに発表された数々の、真理の文章、を編集しなおし、合本として出版されたものである。それを貫く精神は、まさしく『生長の家』誌「創刊号」(昭和五年三月一日)にそのまま記されている。

如何にせば境遇の桎梏から脱け出し得るか、如何にせば運命を支配し得るか、如何にせば一切の病気を征服し得るか、また、如何にせば貧困の真因を絶滅し得るか、如何にせば家庭苦の悩みより脱し得るか……等々。

今人類の悩みは多い。人類は阿鼻地獄のように苦しみ跪がきあせている。あらゆる苦難を癒やす救いと薬を求めている。しかし彼らは悩みに眼がくらんでいはいはしないか。方向を過つていはいはしないか。探しても見出されない方向に救いを求めていはいはしないか。自分は今彼らの行手を照す火を有つて立つ。

ここに明らかに示されているように、この世から、「如何にせば」あらゆる病氣、貧困、闘争等をなくさしめることができるか、それが尊師・谷口雅春先生の願いであり、立教の精神そのものであった。その思い一筋に、尊師は九十余年の生涯を生き抜かれた。それは文字通り、「自分の身体が燃え尽すまで、蠟燭のようにみずからを焼きつつ人類の行くべき道を照射する」との「創刊号」にて記された通りのご生涯であった。

その間、谷口雅春先生が世に問われた著書は五百冊をはるかに越える。まさしく汗牛充棟もただならぬ敬師の著作の中で、その主著をなすのが、この「生命の實相」である。それを求むる声は今なおひきもきらず、この八十年間において、延べ二千万部の大ロングセラーとなつてゐるのは、ひとえに「生命の實相」が人智をはるかに超えた靈感の書であるからにはかならない。事実、本書の「総説篇七つの光明宣言」の中で、谷口雅春先生はこう記されている。

この雑誌の原稿は私の手にもつたペンによつて書かれる。しかし、ひとたび「生長の家」を書こうとして私がペンをもつて机に向うとき、私はもうふだんの私ではないのである。雲来りて私を導く。弱い性質の私にはとても書けない強い言葉が流れるように湧いて来る。

（『新編生命の實相』第一卷一九―二〇頁）

それを証し立てるかのように、この本を読んだ人の間から様々な奇蹟が続出する。読者の間からは、いつしかこの月刊誌「生長の家」誌は「神誌」と呼ばれるようになり、それを編んだ「生命の實相」は聖典の中の聖典とまで称されるにいたる。それがいかにも重要な位置を占めているか、「声字即実相の神示」（谷口雅春先生に天降った啓示の一つ）には次のように語られている。

吾が第一の神殿は既に成れり。名付けて「生命の實相」と云う。完成の年になりて吾が第一の神殿が完成するのも生命の顕現には周期的波動があるからである。……吾れに神殿は不要であると嘗て示したことがあろう。吾れは道であるから、吾が道を語るところに吾が神殿は築かれる。吾が道を載せた「生命の實相」こそ吾が神殿である。「生命の實相」は吾が本体であり、無形の「生命の實相」を形にあらわしたのが「生命の實相」の本である。「言葉」を載せた書物を「本」と云うのも、「言葉」こそ事物の本であり本質であり、本体であり、本物であるからである。

この「生命の實相」と出会い、それによって人生苦から救われ、あるいは病床より起ち上がり、輝かしい人生を切り開いた人は、有名・無名にかかわらず実に枚挙に遑がない。しかし、これだけの名著でありながら、そして多くの各種各版の「生命の實相」がこれまで発行されて来ながら、昭和四十年代に頭注版「生命の實相」全四十巻、愛蔵版「生命の實相」全二十巻が発行されて以来、三十年以上もの長きにわたって、新版が発行されないまま今日に到っていた。この間、読者からは、「生命の實相」の文字が小さくて読みづらい、頭注版の注の説明が古い、等の要望が数限りなく寄せられていた。

この度、これら多くの声に応えるべく、ようやくにして「生命の實相」リニューアル版の刊行にこぎつけることができた。この「新編生命の實相」は、各種各版の「生命の實相」中、最も新しい刊行である愛蔵版を底本とし、本文の文字を大きくし、時代に相応しい新たな脚注を加え、巻末には索引を付している。当然のことであるが、本文内容は底本と全く同じであるが、これらの事情により新たな編成が必要となり、全六十五巻となった。

本書第一巻は、愛蔵版第一巻収録の「総説篇七つの光明宣言」と同第二巻収録の「光明篇生命に到る道」が取められている。これは、「総説篇七つの光明宣言」が前述の昭和七年の初版革表紙版では「序篇七つの光明宣言の解説」とあり、「光明篇生命に到る道」はその翌年の昭和八年に「生命の實相」第二巻に当たる「久遠の實在」に「総説篇生命に到る道」として収録されており、共に「序章」の役割を担って収録されている。そのため、本全集では、この二篇を「新編生命の實相」全体の序章とし、第一巻に収録することとした。

最後に「新編生命の實相」の発刊を通して、これまで「生命の實相」と縁のなかつた新しい世代の人々が導師・谷口雅春先生の「教え」に触れ、運命好転のきっかけを掴んでいただくことができれば、編者としてこれにすぐる喜びはない。一人でも多くの方のご愛読を心より祈念申しあげる次第である。

平成二十三年十一月二十二日